

特に断らなければ $\mathbf{u} := \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$ とし、関数やベクトル場は全て C^∞ 級のものとする。ベクトルは縦横のどちらで書いても差し支えない。要点が押さえられていれば、必ずしも全ての計算過程を書く必要はない。

1. (1) \mathbb{R}^3 のベクトル $\mathbf{a} := \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} := \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{c} := \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ に対し、 $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ を計算せよ。また、 $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$ が張る平行六面体の体積を求めよ。

(2) \mathbb{R}^2 上の関数 $f(\mathbf{u}) := \frac{x-1}{1+x^2+4y^2}$ に対し、 $\text{grad}(f)(\mathbf{u}) = \mathbf{0}$ となる $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2$ を全て求めよ。(答のみでよい)

(3) \mathbb{R}^2 上のベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} \cos x + \sin y \\ \sin x - \cos y \end{pmatrix}$ に対し、 $(\text{rot}\mathbf{V})(\mathbf{u}) = 0$ となる $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2$ を全て求めよ。(答のみでよい)

(4) \mathbb{R}^2 上のベクトル場 $\mathbf{W}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} x - xy^2 \\ y - x^2y \end{pmatrix}$ に対し、 $\text{div}\mathbf{W}$ の最大値と、最大値を与える $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2$ を全て求めよ。

(5) \mathbb{R}^2 上の関数 $g: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}$ は恒等的に 0 の関数ではなく、 $\frac{\partial g}{\partial x} = 2g$, $\frac{\partial^2 g}{\partial y^2} = -k^2g$ をみたすとする (ただし $k \in \mathbb{R}$ は定数)、 $\text{div}(\text{grad}(g))$ が恒等的に 0 となるような k を全て求めよ。

2. \mathbb{R}^2 上のベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} x^3 + xy^2 \\ x^2y - y^3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{W}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} 3x^2 - 4y \\ 4x - 3y^2 \end{pmatrix}$ を考える。

(1) $\text{div}\mathbf{V}, \text{rot}\mathbf{V}, \text{div}\mathbf{W}, \text{rot}\mathbf{W}$ を求めよ。(答のみでよい)

(2) 関数 $f: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}$ で $\text{grad}(f) = \mathbf{V}$ をみたすものは存在するか? 存在するならば f を一つ求め、存在しないならばそのことを証明せよ。

(3) 関数 $g: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}$ で $\text{grad}(g) = \mathbf{W}$ をみたすものは存在するか? 存在するならば g を一つ求め、存在しないならばそのことを証明せよ。

(4) 曲線のパラメータ $l: [0, \pi] \rightarrow \mathbb{R}^2$, $l(t) := \begin{pmatrix} t \\ \sin t \end{pmatrix}$ に対し、 $\int_l \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ を計算せよ。

(5) 曲線のパラメータ $m: [0, \pi] \rightarrow \mathbb{R}^2$, $m(t) := \begin{pmatrix} \cos t \\ \sin t \end{pmatrix}$ に対し、 $\int_m \mathbf{W} \cdot d\mathbf{m}$ を計算せよ。

3. $\Omega := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid |x| + |y| < 1\}$ とおく。

(1) $\partial\Omega$ を表す区分的に正則なパラメータ $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ で、周期的かつ Ω の境界の向きを表すものを一つ与えよ。それが条件を満たす事の証明は省いてよい。

(2) (1) で求めた l と、ベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \frac{2xy}{1+x^2y^2} \begin{pmatrix} y \\ x \end{pmatrix}$ に対し、 $\int_l \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ を計算せよ。ただし (1) の l の周期を T とするとき、 $\int_l \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ の積分区間は $[0, T]$ である。

(3) (1) で求めた l と、ベクトル場 $\mathbf{W}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} x^9 - x^8y + x^6y^3 + 6x^4y^5 - 4x^2y^7 \\ 4x^7y^2 - x^5y^4 - 4x^3y^6 + xy^8 + y^9 \end{pmatrix}$ に対し、 $\int_l \mathbf{W} \cdot n d\mathbf{l}$ を計算せよ。積分区間については (2) と同様である。

4. $\Omega := \mathbb{R}^2 - \{\mathbf{0}\}$ とし、 Ω 上のベクトル場 \mathbf{V} を $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \frac{1}{x^2+4y^2} \begin{pmatrix} -y \\ x \end{pmatrix}$ で定義する。

(1) $\text{div}\mathbf{V}, \text{rot}\mathbf{V}$ を求めよ。(答のみでよい)

(2) 整数 n に対し、 $l_n: \mathbb{R} \rightarrow \Omega$ を $l_n(t) := \begin{pmatrix} 2 \cos t + 4n - 1 \\ 2 \sin t \end{pmatrix}$ で定義する。 $\int_{l_n} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}_n$ を求めよ。